

インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ソウカダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) チカサダ
創価大学	経済学部	近貞ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) チームモットイナイ	フリガナ) キシタニリョウタ	4	無
チームもったいない	岸谷 良太		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)

・指示棒

研究テーマ (発表タイトル)

つなぐプロジェクト 人々と食の架け橋に

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

現在、日本で発生する食品ロスの問題は、社会的な問題となっている。日本で発生する食品ロスは、事業系と家庭系からの食品ロスに分けられ、家庭からの食品ロス発生量は、全体の約半数の量になる。しかし、家庭系食品ロス削減に関してはこれといった取り組みはなされてこなかった。その結果、事業系食品ロスが減少傾向にあることと比べてほとんど改善がみられないのが現状である。これは家庭という、個の集まりであるからこそその難しさともいえよう。ここで我々は、この食品ロス問題の根底には、特に人々の意識 (購買意識等) が大きく関係していると考えます。本研究では、家庭からの食品ロスが減少しない理由を『個人の意識の低さ』であると狙いを絞り、食品ロスに対して特に意識の低い 20 代、その中でも学生を対象とした、意識改革プロジェクトを発案する。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

今日、食品ロス問題が世界でも大きな問題となっている。食品ロス排出量が多いのは先進国であり、特に日本での大量廃棄が大きな問題となっている。日本では、毎年世界への食糧援助量の約 2 倍もの食品ロスを排出して

おり、世界各国と比較しても多いほうにあたる。

先進国では、経済の発展に伴い、人々の生活水準、購買意識が変化してきた。次々と新しいものが登場し、人々は新しいものに意識がいき、豊かであるからこそその食に対する安全性を求めるようになってきている。特に日本では、食への安全性・新鮮さを求める意識が先進国の中でも非常に高く、まだ食べられるのに捨てられる食品（食品ロス）は、1日1人当たりごはん1膳分に相当する。また食品廃棄量としては、事業系は減少傾向にあるのに対し、家庭系からの食品廃棄の推移はほぼ横ばいであり、ここ数年は1000万トンを維持している。これは、家庭系は事業系と違い、削減義務の規定がないことに加え、個という集合体である家庭の食料廃棄削減の基準を設けることが難しく有効な打開策が見つかっていないことが原因にあげられる。

事業単位ではなく、個々の集まりである家庭では一人ひとりの食品ロス削減に向けた取り組みが重要になることは明白であり、人々の食品ロスに対する意識を高めることが、今日の家庭から排出される食品ロスを削減するために重要であると言えよう。

なお、約9割もの都道府県が食品ロスに対する取組をしているが、人々の食品ロスの認知はまだまだ少ないのが実情である。

3. 研究テーマの課題

我々は、日本の家庭からの食品ロスが減らない原因を「食品ロスが社会的問題であると認識していない」「食品ロス削減方法の認知の低さ」と考える。食品ロスを認知している人の方が、食品ロス削減に対し取組を実際に行っており、食品ロスに対する認知を高めることが重要であると考え。また、2017年8月～9月に我々が学生を対象に実施した食品ロスに関する意識アンケートでは154人から回答を得、その内44%の人が関心はあるが取り組めていないと答えており、食品ロスを認知しているが具体的な削減方法への取組が分からない人へのアプローチも共に重要であると考え。

現在、市区町村では食品ロス削減に取り組んでいるが、食品ロス啓蒙活動に対する予算がなく取り組みにくいという意見もあり、食品ロスへの認知を高めるとい点において、食品ロスを身近に感じてもらう啓蒙活動が重要になる。

我々の目的は、家庭系からの食品ロス削減であり、その対象を学生に絞り、食品ロスの認知を高め、加えて食品ロスに関する情報や、具体的な削減方法を提供することである。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

我々は、家庭から食品ロスを減らすために、SNS等での食品ロスの問題提起を行っていくとともに、食品ロス問題の現状、具体的な削減方法等の情報を提供する。ツイッター等のSNSの情報発信により、食品ロスに関心のない人にも意識の触発をしていく。ツイッターの内容としては、①食品ロスの現状、既存の削減方法の紹介、②質問形式で問題意識を提起する、③具体的な削減方法の紹介、である。

また、食品ロスに関心がある人を対象に、食品ロスに関するセミナーを学内にて開催する。セミナーの内容としては、食品ロスの現状を伝え、さらに問題提起を促したうえで、身近な方法で出来る食品ロス削減方法の紹介、食品ロスの取組をしている団体や取組等を紹介し、食品ロスへの個人の行動を促す。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

具体的な活動内容としては、家庭からの食品ロス削減に向けて、『つなぐプロジェクト』と題し、具体的に2つの取り組みを行っていく。1つ目は、食品ロスに関するセミナーを学内にて開催する。セミナーでは、食品ロス削減のための方法を啓蒙し、学生の食品ロス削減のための行動を促す。食品ロスの現状、具体的な削減方法、食品ロスの取組をしている団体、またはイベントを紹介しさらに関心を持ってもらう。同時にアンケート調査を行い、セミナー参加後の意識の変化を調べ、今後の活動につなげる。2つ目は、SNSで主にツイッターやフェイスブックなどの若者が頻繁に使用する媒体を活用し、食品ロス削減対策の情報を発信する。我々の創価大学内だけ

ではなく、他の大学にも活動を広げていく予定である。

セミナーでは、主に食品ロスの問題に関心のある学生に焦点を当て、食品ロスを知る機会の場を提供し、SNSでの情報提供では関心のない学生にも食品ロスの問題を身近に感じてもらうことを目的とする。これらの活動を通して、「一人一人の取組の重要性」を知ってもらうことを目的としている。

6. 結果や今後の取り組み

我々がこのプロジェクトを通して得た結果として、2017年9月に学内にて開催した食品ロス意識改革セミナーにて、受講後、実際に食品ロス削減に向け取り組みをしたいと回答した学生が9割であったことから、食品ロスの認知を高める活動は有効であることを確認した。

今後の取組としては、家庭系の食品ロス問題に対する学生の認知を広めていく。

具体案としては、八王子市内へ広げていくことを考えている。我々創価大学内から、月に1回学内にて「食品ロスセミナー」を開催し、そこから八王子の他大学へと食品ロス削減運動を広めていく。他大学との連携から、他大学にてセミナーを開催し、意識調査をとることによって、我々のプロジェクトが有効であることを確認する。

最終的には、八王子外の地域へも学生を対象にした食品ロス削減プロジェクトを展開し、我々チームもつたないが運営していく。

7. 参考文献

- 『食品ロスの経済学』(2015) 小林富雄 農林統計出版
- 食品ロス削減に係る一般市民意識変化調査について(2017年8月25日参照) https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/pmph/shinshu-kouei/zassi2014_9_1/16.pdf
- 消費者庁 平成26年版『消費者白書』(2017年9月2日参照) http://www.caa.go.jp/information/hakusyo/2014/honbun_1_1_3_1.html
- 「平成26年度学生生活調査」JASSO(2017年9月6日参照) http://www.jasso.go.jp/about/statistics/gakusei_chosa/2016.html
- 食品ロス削減にかかる一般市民意識変化調査(2017年8月24日参照) https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/pmph/shinshu-kouei/zassi2014_9_1/16.pdf
- 食品ロス統計調査・世帯調査(平成26年度)(2017年9月24日参照) http://www.maff.go.jp/j/tokei/sokuhou/loss_setai_14/
- 食品ロス統計調査(世帯調査)概要(2017年8月24日参照) http://www.maff.go.jp/j/tokei/sokuhou/loss_setai_09/
- 平成28年度 都道府県の食品ロス削減の取組状況(参照2017年8月23日参照) http://www.caa.go.jp/adjustments/pdf/adjustments_index_9_170605_0001.pdf
- 農林水産省「食品ロスの現状について」(2017年8月23日参照) http://www.maff.go.jp/j/study/syoku_loss/01/pdf/data2.pdf
- 政府広報オンライン(2017年8月25日参照) <http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201303/4.html>
- 農林水産省 平成21年度食品ロス統計調査報告(2017年9月10日参照) http://www.caa.go.jp/adjustments/pdf_data/131028_sanko2-5.pdf
- 平成19年度農林水産省統計部(2017年年9月24日参照) http://www.maff.go.jp/j/study/syoku_loss/01/pdf/data2.pdf
- 食品ロス削減に係る一般市民意識変化調査について 土屋雄一、羽田野雅司(松本市環境政策課)(2017年4月6日参照) https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/pmph/shinshu-kouei/zassi2014_9_1/16.pdf

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経BPマーケティング社様に作製していただく大会結果HPに本企画シートは掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、提出してください